

コード No. 28057

**Anti-Human
Dock7 Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 50 µg

はじめに : Rho ファミリーの低分子量 GTP 結合タンパク質は、細胞の形態変化、細胞分裂、分化などを司るシグナル伝達因子のひとつであり、個体レベルでは発生や器官形成を制御する重要な役割を果たしています。その機能制御は厳密になされ、機能不全が起った場合には免疫疾患や神経変性疾患などの多くの疾病の原因となっています。

Dedicator of cytokinesis (Dock) 7 は、この Rho ファミリーの低分子量 GTP 結合タンパク質のなかでも Rac1 と Cdc42 を特異的に活性化する、Rho ファミリー低分子量 GTP 結合タンパク質活性化因子(交換因子)で、広範囲な発現を示す分子です。Dock7 は特に中枢・末梢の両神経組織に多く発現しているため、神経細胞やグリア細胞の増殖・分化に重要な因子であることが指摘されています。一方で、結節性硬化症(プリングル病)原因遺伝子産物 TSC1/2 と複合体を形成することが知られているため、脳腫瘍を引き起こす知能低下や TSC1/2 の発現量が多い血管における血管線維腫との関係も示唆されています。

ヒトには、Dock7 ときわめて類似した Dock6 と Dock8 と呼ばれるタンパク質が存在していますが、その制御機構は不明です。

免疫抗原 : Human Dock7 の部分合成ペプチド (KELFALHPSPDEEE)

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製

包装形態 : 1% BSA、0.05% NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 50 µg/mL となります)

保存方法及び : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定

安定性 : 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び : 免疫細胞染色 0.2~2 µg/mL にて使用可能

使用方法 : ウェスタンブロッティング 0.2~2 µg/mL にて使用可能

: 免疫沈降法 1~3 µg/test にて使用可能

特異性 : Rat と交差

- 参考文献 : 1. Côté JF, Vuori K. Identification of an evolutionarily conserved superfamily of DOCK180-related proteins with guanine nucleotide exchange activity. *J Cell Sci.* 2002 Dec 15;115(Pt 24):4901-13.
2. Miyamoto Y, Yamauchi J, Sanbe A, Tanoue A. Dock6, a Dock-C subfamily guanine nucleotide exchanger, has the dual specificity for Rac1 and Cdc42 and regulates neurite outgrowth. *Exp Cell Res.* 2007 Feb 15;313(4):791-804.
3. Yamauchi J, Miyamoto Y, Chan JR, Tanoue A. ErbB2 directly activates the exchange factor Dock7 to promote Schwann cell migration. *J Cell Biol.* 2008 Apr 21;181(2):351-65.